

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市燕沢児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和6年度 25,498人(前年度比 115.8%) ・令和5年度 22,022人 ・令和4年度 18,866人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 44,708千円(38,750千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円) ()は前年度決算額		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館地域連絡会、児童クラブ保護者説明会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
地域団体やボランティアにご協力をいただきながら様々な行事を実施しました。 健全育成事業では、児童が様々な遊びを通して、好きな遊びや得意なことを見つけ、自己肯定感を高めていけるように「おはなしの部屋」「囲碁将棋タイム」「手作りしよう」では、はたおりや布遊び、「スポーツしよう」では卓球や野球等に取り組めました。ボランティアの方に褒められたり励まされたりしながらいろいろな遊びに挑戦することで、できることが増え「折り紙が得意」「卓球が上手になった」等、自信を持って話す姿が見られ、自己肯定感の向上が見られます。 子育て家庭支援では、定例で実施するクラブの他「つばめっこサロン」を実施しました。手形足形を使ったカレンダー作りや、民生児童委員や近隣の子育て施設の職員に協力いただいたのふれあい遊び、お茶を飲みながらのトークの時間が保護者のニーズに合致し、乳幼児親子の来館増につながりました。子育て支援クラブと共催の「わくわく子育てセミナー」ではフラワーアレンジメントや親子体操などを実施し、子育て中の保護者の「やってみたい」を実現しました。 地域交流推進事業では、児童館まつり「つばめっコランド」を行いました。仮装パレードでは60人が趣向を凝らした仮装で盛り上がり、281名が集う盛大な祭りになりました。ダンスクラブは地域の祭りや演芸大会でもダンスを披露し、地域の方に児童館の活動を知っていただく機会になりました。 放課後児童健全育成事業では、3年生以上の児童が「子ども会議」を毎月開催し、行事の企画や遊びのルール、児童館への要望などを話し合いました。会議で決めた「児童クラブの約束」は自分たちの約束という意識が高まり、守ろうとする姿が見られます。 今後も児童の自主性や意見を尊重して、自分から発信できる子どもを育てるために、地域と連携していきたいと思います。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、小物入れやストラップ等のもの作り、卓球・ゲートボール等の運動遊び、野菜の栽培、囲碁や将棋等、地域の人材を活用して様々な体験を提供し、子ども達が地域と密接に関わりを持ちながら育つ環境作りに努めている。 子育て家庭支援事業においては、児童クラブの子ども達が企画・準備したおみせやさんごっこを夏休みに行き、小学生と乳幼児親子の交流が図られた。また、0歳児対象と1歳児以上対象の登録制の幼児クラブは、季節の行事や親子のふれあい遊びを通して、参加者の情報交換や仲間作りの場となっている。また「わくわく子育てセミナー」は、子育て支援クラブの協力のもとフラワーアレンジメントやわらべうた等、利用者のニーズに合わせた多様なプログラムを提供し、乳幼児親子を支援するための環境作りに努めている。 地域交流推進事業においては、令和6年度新たに地域包括支援センターとの連携で高齢者と小学生がニュースポーツを通して交流し、子どもが地域と関わりながら育つ環境作りに努めている。また、毎年人気の仙台第三高等学校科学部による科学遊び、職場体験の中学生とのさつま芋の収穫を通じた交流、地域探検等、様々な多世代交流の場を提供し、子ども達の興味関心の幅を広げている。 放課後健全育成事業においては、子ども会議と学年集会を毎月行い、日々の振り返りや児童クラブでやってみたい事、また職員からの問題提起による話し合いの場を設けている。毎月の目標を学年毎に話し合っ設定し掲示する事で、異学年の思いを知る事ができ相互理解に繋がっている。異学年交流を図りながら子どもの思いや意見を汲みあげる工夫や発言しやすい環境を整えて、様々な発達の過程にある子どもが、それぞれ主体的に生活できるような支援をしている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子ども若者局子ども若者支援部児童クラブ事業推進課